

おいしい

米づくり情報

No.4

令和8年6月15日発行
J A て ん ど う
天童市農業技術指導会議

▶現在の生育状況（6月11日現在）

品種	項目	指標	R5	R6	R7	本年	平年	平年差	指標差
はえぬき	草丈 (cm)	26.0	24.0	24.6	22.3	24.5	25.4	-0.9	-1.5
	茎数 (本/m ²)	260	135	131	117	143	157	-15	-117
	葉令 (枚)	6.5	4.7	4.9	5.0	4.5	5.1	-0.5	-2.0
つや姫	草丈 (cm)	30.0	31.2	31.2	28.0	28.6	28.9	-0.3	-1.4
	茎数 (本/m ²)	220	155	123	183	233	198	35	13
	葉令 (枚)	6.6	5.2	5.5	4.9	5.2	5.2	0.0	-1.4
雪若丸	草丈 (cm)	25.0	24.3	24.5	24.0	24.4	22.7	1.7	-0.6
	茎数 (本/m ²)	240	150	128.2	132	110	164.4	-54	-130
	葉令 (枚)	6.4	4.8	5.9	5.0	5.4	4.8	0.6	-1.0

茎数バラつき大！浅水管理で茎数確保に努めましょう！

茎数確保の遅れ▶収量・品質低下に直結！

特に雪若丸は一穂粒数が変動しにくい特性があるため指標通りの穂数を確保しないと収量に結びつきません。そのためこの時期の管理がとても重要となります。

6月20日の生育（茎数）が不足している場合（300本/m²以下又は14本/株以下）では窒素成分で1kg/10a程度を補完施肥して有効茎を確保して下さい。

▶茎数が不足している場合 特に移植が遅れた圃場は茎数確保に努めましょう！！

・分けつ発生促進のために、6月中は**水深2～3cmの浅水管理**で日光を十分田面に当てましょう。（日中止水し地温を高め生育を促進、夜間は灌水の徹底による稲の消耗を防ぐ）

・土壌のワキ（異常還元）による茎数不足や葉色低下が見られる場合は直ちに**落水し田干し**（1～2日程度）を行い、**6月中に有効茎数を確保**しましょう。

・**今年は高温により藻が発生している圃場が多く見られます**。藻が多発していると圃場の水温・地温が上がりにくくなるので、水交換や田干しを行って、発生を抑えましょう。

水の入れっぱなし管理は田ワキを助長します。

土壌環境を今すぐ改善しましょう！

田ワキの原因は土壌中の酸素不足です。

除草剤散布後 1週間が経過したら新鮮な水を供給して田ワキを解消しましょう！



停滞水に発生した気泡（ワキ）

▶中干しの開始目安

目標茎数を確保した圃場から中干しを開始！！

- ・目標茎数（80%）を確保、または田植え約1か月後頃（30日後）が中干しの開始目安です。
- ・中干しは、**小ヒビが入る程度**が目安です。出穂1か月（7月10日頃）までに終了します。
- ・中干しが不十分だと根域が縮小して高温時に玄米品質が低下します。

■中干し開始の茎数目安（本/株）

植込密度	はえぬき	つや姫	雪若丸
70 株植	21 本程度	19 本程度	26 本程度
60 株植	24 本程度	22 本程度	29 本程度

▶除草

5月の高温の影響でノビエ・ホタルイ等の発生が多い状況です！！

発生が多い圃場は早めに（速やかに）除草剤を散布しましょう！！

■除草剤（中期剤）

薬剤名	使用時期	使用量（10a）
レブラスギア1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ4葉期まで	1kg
テッケンジャンボ	移植後15日～ノビエ4葉期まで	10個（500g）
ワイドショット1キロ粒剤	移植後15日～ノビエ4葉期まで	1kg

※ 湛水状態（水深3～5cm）散布 ※ 散布後7日間は落水、かけ流しはしない。

■除草剤（残草対策）

薬剤名	対象雑草	使用時期	使用量（10a）
バサグラン液剤	一年生雑草（イネ科を除く）・多年生雑草	移植後15～収穫45日	500～700ml （希釈水量70～100ℓ）
クリンチャーバスME液剤	一年生雑草・多年生雑草	移植後15～収穫50日	1ℓ （希釈水量70～100ℓ）

※落水散布又はごく浅く湛水して散布。

※散布後2日以内に降雨があると効果が劣ります。

薬剤名	対象雑草	使用時期	使用量（10a）
ロイヤント乳剤	ノビエ・多年生雑草	移植後20～収穫45日	200ml （希釈水量100ℓ）

※落水散布又はごく浅く湛水して散布。 ※ホタルイ、クログワイには効果が低い。

※散布2時間後の雨でも効果を発揮します。

- ・イナゴ類の発生量の多い所では、トレボン粉剤DL(3～4kg/10a)（収穫7日前まで3回以内）またはトレボン乳剤2000倍（収穫14日前まで3回以内）をすぐに畦畔を中心に散布する。
- ・最低気温が15℃以上で雨が2～3日続くと、葉いもちが発生しやすくなります。

水田内の置き苗はいもち病の発生源となるので、直ちに処分する。